

○機関連編集委員会

□特別顧問

▶松井 大悟
日本非開削技術協会会長

□委員長

▶石川 和秀
(社)日本下水道管渠推進技術協会専務理事

□委員

- ▶秋山 浩志
コマツ地下建機エンジニアリング部企画グループGM
- ▶安藤 茂
(財)水道技術研究センター常務理事
- ▶伊藤 和彦
日本ゼニスパイプ株式会社取締役社長
- ▶岩田 洋
芦森工業(株)バルテム・ジオカンパニー付参与
- ▶塩冶 幸男
東京電力(株)工務部地中送電グループ課長
- ▶大谷 英之
(株)イセキ開発工機取締役管理部部长
- ▶小幡 弘喜
株協和エクシオ顧問
- ▶木下 浩次
(株)奥村組技術本部土木部長
- ▶黒岩 正信
アイレック技建(株)営業開発本部探査開発部長
- ▶葛ヶ谷 哲
東京ガス(株)パイプライン技術センター主幹
- ▶土山 和夫
(財)道路管理センター常務理事
- ▶堀地 紀行
国土館大学工学部教授
- ▶松村 正男
関西電力(株)電力システム技術センター送電G課長
- ▶森岡 真一
積水化学工業(株)環境土木システム事業部部长
- ▶山崎 義広
(株)三水コンサルタント東京支社技術部長

○機関連編集企画小委員会

□特別顧問

▶松井 大悟
日本非開削技術協会会長

▶石川 和秀
(社)日本下水道管渠推進技術協会専務理事

□編集企画小委員長

▶和田 洋
(株)奥村組営業本部技術営業部部长代理

□委員

- ▶秋山 浩志
コマツ地下建機エンジニアリング部企画グループGM
- ▶今川 明
積水化学工業(株)環境土木システム事業部課長
- ▶岩田 洋
芦森工業(株)バルテム・ジオカンパニー付参与
- ▶塩冶 幸男
東京電力(株)工務部地中送電グループ課長
- ▶奥田 早希子
編集オフィス chomo
- ▶川合 孝
(株)協和エクシオ都市土木設計積算G課長
- ▶黒岩 正信
アイレック技建(株)営業開発本部探査開発部長
- ▶塩見 昌紀
日本ゼニスパイプ(株)常務取締役企画部部长
- ▶葛ヶ谷 哲
東京ガス(株)パイプライン技術センター主幹

○編集スタッフ

事務局長: 森田 芳樹
編集: 赤坂 誠

○提携媒体

1. Trenchless Technology International (TTI)
2. Tunnelling and Trenchless Construction (TTC)

道路を掘らない技がここにある
環境にやさしい非開削技術

季刊
NO-DIG
TODAY



No.58
2007 Jan.

目次

3	●年頭のごあいさつ	JSTT日本非開削技術協会会長 松井 大悟
4	●写真速報	・No-Dig2006プリスペイン豪州非開削技術視察調査団 ・2006非開削技術研究発表会(第17回)
6	●特集/地上からの調査探査の非開削技術	
7	特集のねらい	本誌編集企画小委員会 黒岩 正信
13	技術解説/電磁誘導法による連続的な地下埋設物探査技術「ケーブルエクスプローラ」について	NTTインフラネット(株)技術開発部長 中西 信輔
17	” /ボーリング孔を利用したボアホールレーダ探査	応用地質(株) 利岡 徹馬 ” 山内 政也
21	” /マルチ周波数型EM探査と原位置試験を用いた地盤の空洞・ゆるみ調査手法の開発	東亜建設工業(株)土木本部防災技術室課長 大野 康年
26	” /地上からの非開削埋設管探査技術	アイレック技建(株)取締役営業開発部部长 須藤 佳一
30	●国内施工報告	
33	スピーダーSPM工法(改築更新工法)の施工報告	(株)ホウショウEG 影目 一夫
36	北海道の原野をHDD工法で施工	岩下産業(株) 岩下 修二
40	●現場見学記	
41	推進工法(φ3000)による地中接合工事(やどかり君工法)	(株)中村土木建設代表取締役 中村 陽公
44	JSTTデモ施工見学会 HDD工法(フレックスドリル)見学しました。	本誌編集企画小委員会 塩見 昌紀
48	●国内施工展示会報告	
50	つくばフォーラム	本誌編集企画小委員会 奥田早希子
52	土壌・地下水環境展	本誌編集企画小委員会 奥田早希子
54	●No-Dig2006プリスペイン豪州非開削技術視察調査団報告	
56	●洋行通信 其の参「蘇格蘭の風景」	国土館大学工学部教授 堀地 紀行
58	●知って得する身近なScience 「ビル風と飛行機」	西尾 宣明
60	●UP DATE	
62	●編集委員リレー執筆コーナー	(株)イセキ開発工機取締役管理部部长 大谷 英之
64	●工法ナビToday	
66	●JSTT委員会	
68	●編集後記	本誌編集委員長 石川 和秀

表紙の写真

従来の計測方向は、10kmを1ヶ月かけて計測していた。しかし、連続的に計測することができるケーブルエクスプローラは、計測時間をたった3日間と飛躍的に向上させ、かつ、1m単位での計測まで可能にした。(7ページ参照)